



ネットとロープで天井下部より直接天井を保護する

・既存天井用落下防止防護ネット柵
 ・フェイルセーフ防護ネット柵

サック (熊本市)

既存天井耐震検査後の地震・築年数等によって天井脱落の危険が予測される建物への活用を。既存天井用防護ネット柵

の特許を取得。企画設計提案から見積もり・施工請負まで一貫した事業を全国展開しており、現在(3月末)までに全国各地から問い合わせが殺到。さらに、4月から施行された「建築物の天井における建築基準法施行令、既存の天井の落下防止措置」に適用できる商品として注目を浴びている。工法は、ジョイントナット、延長ボルト、ワイヤー通し金具などを既存吊ボルトもしくは新設吊ボルトに連結して天井下部

天井を解体せずに取り付可能

まで下ろし、さらにワイヤーロープとネット等で天井下部にネット柵を構成し直接天井を防護する。既存天井を解体せず、そのままの状態を取り付けられることが大きな強みだ。

このほか、防護ネット柵の基準ネットサイズ・太さが40^{mm}角・40本を使用するため、蛍光灯の取り換えが可能で、照明照度減の影響はほとんどない。

昨年4月に開発研究所(甲佐町)内で天井等落下物実証実験と、昨年12月、今年4月に崇城大学の技術協力のもと、防護ネット柵載荷実証実験を2度実施した。

これまでの施工実績では▽原子力発電所(通路部分)の防護ネット柵▽名古屋市体育館落下物防止防護ネット柵▽荒川区プール屋内天井落下防止防護ネット柵▽柏市公設市場防護ネット柵等がある。

現在、全国区のあらゆる網・ネットの製品を取り扱っている泰東(本社・大阪府、日東製網グループ)と業務連携し、事業を展開している。

櫻木社長は「国内での販売体制をさらに確立するため、大手内装業者・大手設計事務所等の連携を図っていきたい」と意欲を示している。

全国で対応可能

技術や工法、商品を導入した企業・団体を紹介します。情報をご提供ください。掲載は無料です。☎096・368・4222